1	名古屋	汐路小学校	イシハラ　タカヒロ 名前　石　原　孝　裕

分科会番号	3	分科会名	社会科教育（小学校）

研究題目　　見通しをもって課題を追究・解決できる児童が育つ社会科学習

研究要項

1　研究のねらい

学習指導要領では「主体的・対話的で深い学びを実現するようにして、問題解決的な学習の充実を図る」ことが求められ、さらに、問題解決的な学習過程の充実を図るために、「社会的事象から学習問題を見いだし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫すること」が考えられると述べており、学習に見通しをもち、問題解決的な展開の中で課題を解決することが重要視されているといえる。

私の考える「見通しをもって課題を追究・解決できる児童」とは、「何を調べたらよいか、具体的になっている学習計画を立てて見通しをもち、自分の学習を振り返りながら学習問題を解決している児童」のことである。

本学級の児童は、歴史学習をするにあたり、資料から問いをもち、問いからつくられた学習問題を追究する学習を行ってきた。例えば「戦国の世から天下統一」の単元では、資料から問いをもち、「信長と秀吉はどのように天下統一を目指したのだろうか」という学習問題を設定し、児童の疑問や予想から「政策」「戦い」「外交」という追究の視点をつくり、どの視点から調べるかを選択するような学習計画を児童に立てさせ、個別に調べさせた。しかし、この学習計画では、導入でもった自分の問いの追究は意識されない上に、「具体的には何を調べたらよいのか」という計画にはなっておらず、具体的な見通しが立っているとは言えない。また、個々の調べ学習の際には、調べていることが本当に学習問題の解決に向かっているのか分からなかったり、調べていることが学習問題から逸れたりしている児童がいた。そこで、本実践では、自分がどのようなことを調べていくのかが具体的に分かる学習計画になるような工夫や、調べたことが学習問題の答えに向かっているかを確認・修正しながら学習を進めることができるような工夫をする。これらの手だてにより、研究主題に迫っていく。

2　研究を進めるにあたって

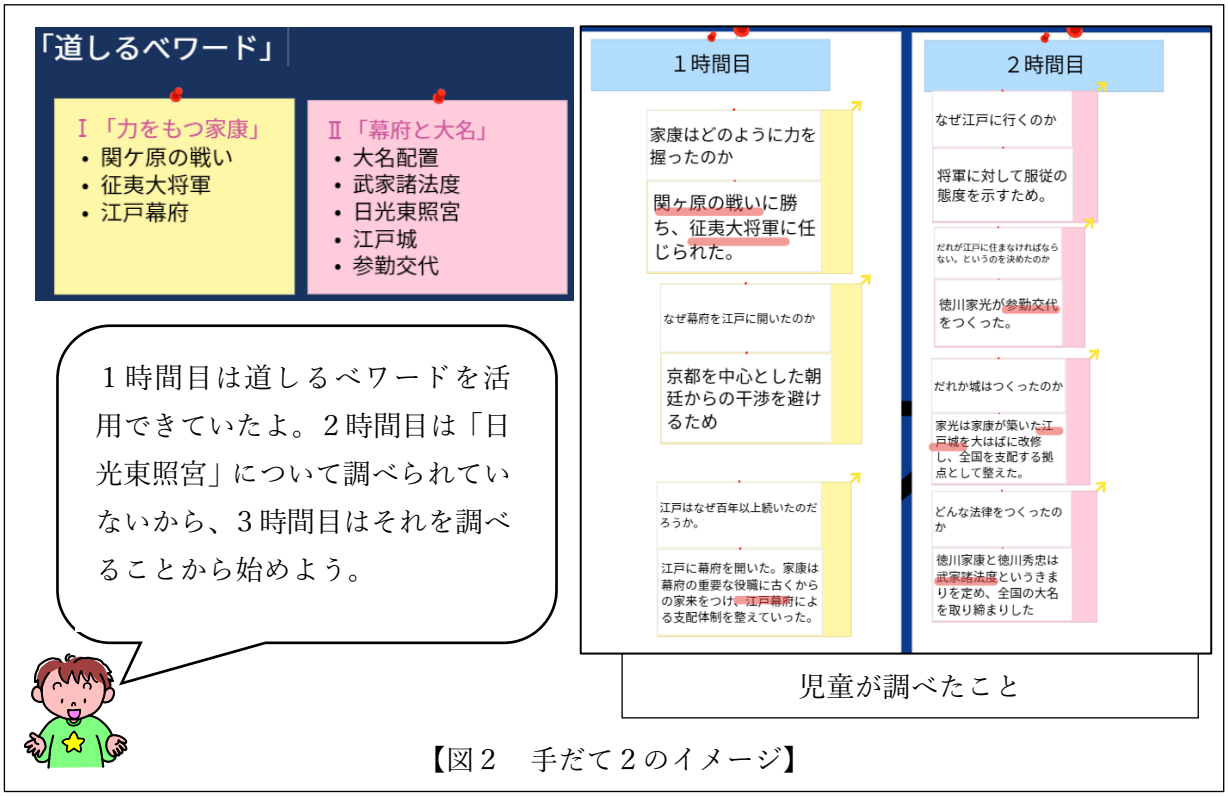
(1)　問いを基に学習計画を立てる「問いカード」の作成・活用【図１】

単元を「つかむ段階」、「調べる段階」、「まとめる段階」の流れで行う。まず、つかむ段階で資料から問いをもち、学習問題をつくる。次に、学習問題を追究するために何を調べればよいかを考える活動として、学習問題についての予想と、問いづくりを行う。学習問題の答えを予想した後、教師がその単元の流れや、学ぶことの資料の一部を「学習問題解決のためのヒント」として提示する。児童は予想したことや資料から、複数の問いを立て、探求学習・共同学習システムを活用し、一つの問いにつき、一枚のカードに問いを記述していく（問いカード）。問いを学級で共有した後、カードを分類し、追究の視点を設定し、その後、カードに書いてある問いをどの順番で調べていくかを考えて、カードを並び替える。もし、追究の視点に照らして、自分の問いカードに不足があれば、共有した際に出た問いを自分の問いカードとして追加し、計画に加える。これが、自分の学習計画になる。このように、問いカードを並び替えて学習計画を立てることで、単元を通して自分の問いを解決することができ、調べることも具体的になり、学習に見通しをもって学習を進めることができると考える。

【図１　手だて１のイメージ】

(2)　学習問題解決に向けての「道しるべワード」の提示【図２】

調べる段階では自分の問いについて調べ、分かったことを問いカードに記述していく。この際、学習問題の解決にも向かうことができるように「道しるべワード」を提示する。「道しるべワード」とは、学習問題の答えにつながる用語・語句のことである。教師が道しるべワードを提示することで、子どもは自らの問いについて調べながらも、学習問題の答えに向かっているかを確認・修正しながら学習を進めることができる。授業終盤にペア活動を設け、その中に、道しるべワードを活用して調べることができているか、学習の内容を評価し合う活動を入れる。その後、振り返りを行い、自分の学習のよかった点や足りない点、次時の計画を記述させる。計画に変更があれば、カードの追加や並べ替えを行う。道しるべワードを活用して学習を振り返ることで、自らの問いの答えを見付けながら、学習問題の答えにつながる追究を進めていくことができるようになると考える。



【図２　手だて２のイメージ】

3　実践の概要

(1)　実践単元　　「江戸幕府と政治の安定」

(2)　実践の対象　６年生　３４名

(3)　実践のねらい

「江戸幕府はどのように２００年以上も政治を安定させたのだろうか」という学習問題について、自分で見出した問いを基に学習計画を立て、自分の学習を振り返りながら、学習問題を解決することができるようにする。

(4)　学習過程

つかむ段階（１～２時）

○　鎌倉幕府や室町幕府に比べ、江戸幕府が長い期間政治を安定させたという資料を提示することで疑問をもたせ、学習問題を設定し予想する。

学習問題：江戸幕府はどのように２００年以上、政治を安定させたのだろうか

○　予想や年表から問いを複数見出す。

手だて１問いカードの作成

○　問いや予想から学習計画を立てる。

手だて１　問いカードを用いて学習計画を立てる

自分が疑問に思ったことを調べていけるから、調べる段階で何を調べたらいいか、よく分かる計画表ができたよ。

調べる段階（３～７時）

○　学習計画に沿って調べていく。

調べる視点：①力をもつ家康　②幕府と大名　③幕府と身分　④幕府の外交

○　道しるべワードを満たして調べられているかについて振り返りを行う。

手だて２「道しるべワード」の提示
①の視点
　関ケ原の戦い　征夷大将軍　　江戸幕府　大名配置
②の視点
　武家諸法度　　日光東照宮　江戸城　参勤交代
③の視点
　身分　城下町　百姓
④の視点
　キリスト教　島原の乱　鎖国

道しるべを通っているから、学習問題の解決に向けて調べられていると、自信をもって進められるよ。
問いカードを動かしたり、足したりするだけだから、計画の見直しもしやすいよ。

○　学習計画を見直す。

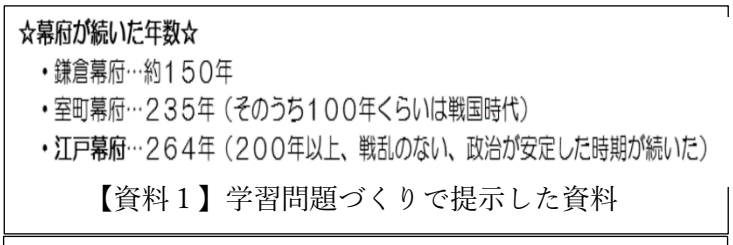
まとめる段階

○　学習問題に対する自分の考えをもつ

4　実践の様子

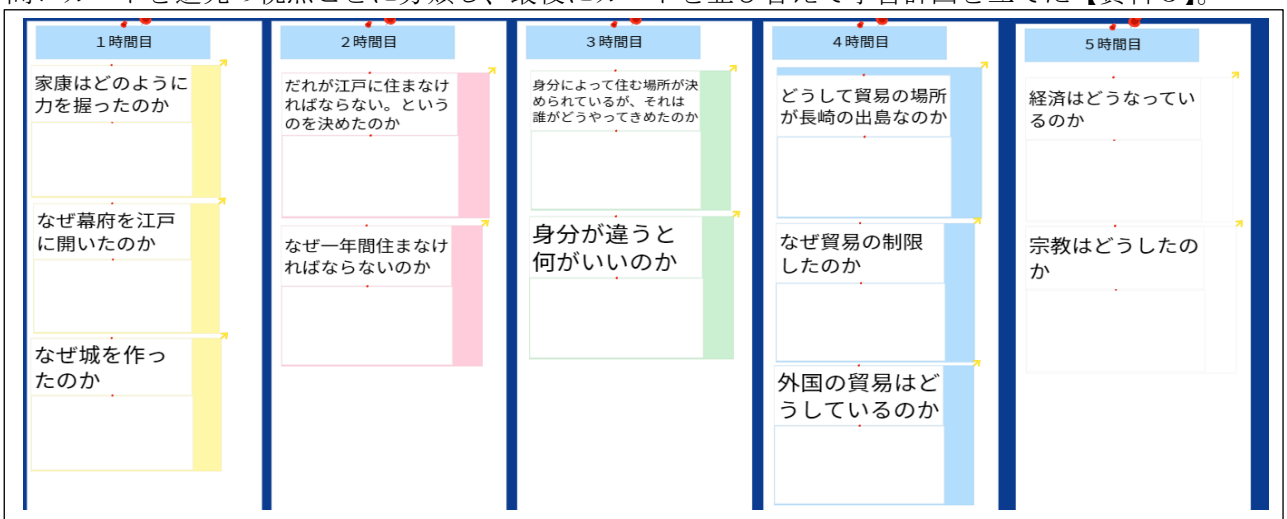
手だて１　問いを基に学習計画を立てる「問いカード」の作成

つかむ段階ではまず、これまで学んできた幕府が何年続いたかを捉えた。次に、これから学ぶ江戸幕府が２６０年以上続き、２００年以上平和な時期を続けたことを知らせると【資料１】、児童は「江戸時代は長いね」「どうやって戦乱のない世の中をつくったのだろう」と疑問をもったため、学習問題「江戸幕府はどのように２００年以上、政治を安定させたのだろうか」を設定した。その後、学習問題について予想し、「問題を解決するために、必要な問いをつくろう」と投げ掛け、その単元で学ぶことの一部の資料を「学習問題解決のヒント」として提示した【資料２】。児童は資料から疑問に思ったことをカードに書き込んでいった。すると「家康はどのように力を握ったのだろう」「参勤交代はなぜ行われたか」「住む場所と政治の安定の関係はあるか」「なぜ長崎だけで貿易をしたのだろう」などの問いが見出された。クラスで問いを発表して共有し、分類し、それぞれに「力をもつ家康」「幕府と大名」「幕府と身分」「幕府の外交」と名前を付け、追究の視点とした。児童は自分の問いカードを追究の視点ごとに分類し、最後にカードを並び替えて学習計画を立てた【資料３】。



【資料１】学習問題づくりで提示した資料

【資料２】学習問題づくりで提示した資料

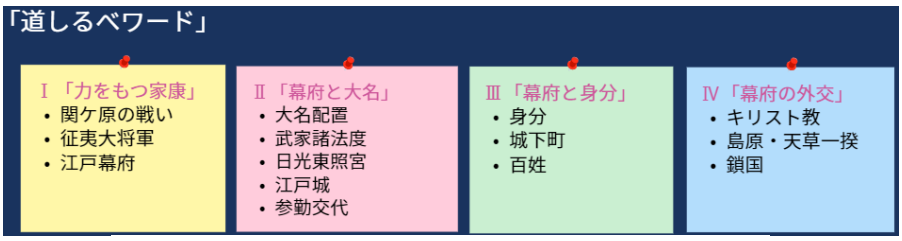


【資料３】児童が作成した学習計画

この際、「この視点は調べることが多そうだな」と時間配分の目安になると考え、手だて２の道しるべワードも提示し、計画を立てる際の参考にさせた。また、ある視点にカードが１枚もなかったり、足りないと感じたりした場合、問いカードを付け足して学習計画を作り、単元を通した見通しをもっていた。クラス全員が全ての視点を網羅する計画を立てることができていた。

手だて２　学習問題解決に向けての「道しるべワード」の提示【図２】

「調べる段階」では、児童は、教科書や資料集、教師自作の資料などを使って、自分の問いを解決した。児童は自分の問いを解決しながらも、道しるべワードを参考にして調べ学習を進めた。【資料４】「自分の問いは解決できたけど、調べられていない道しるべワードがあるから次はそれを調べよう」とカードを新しく追加して調べていく姿が見られた。



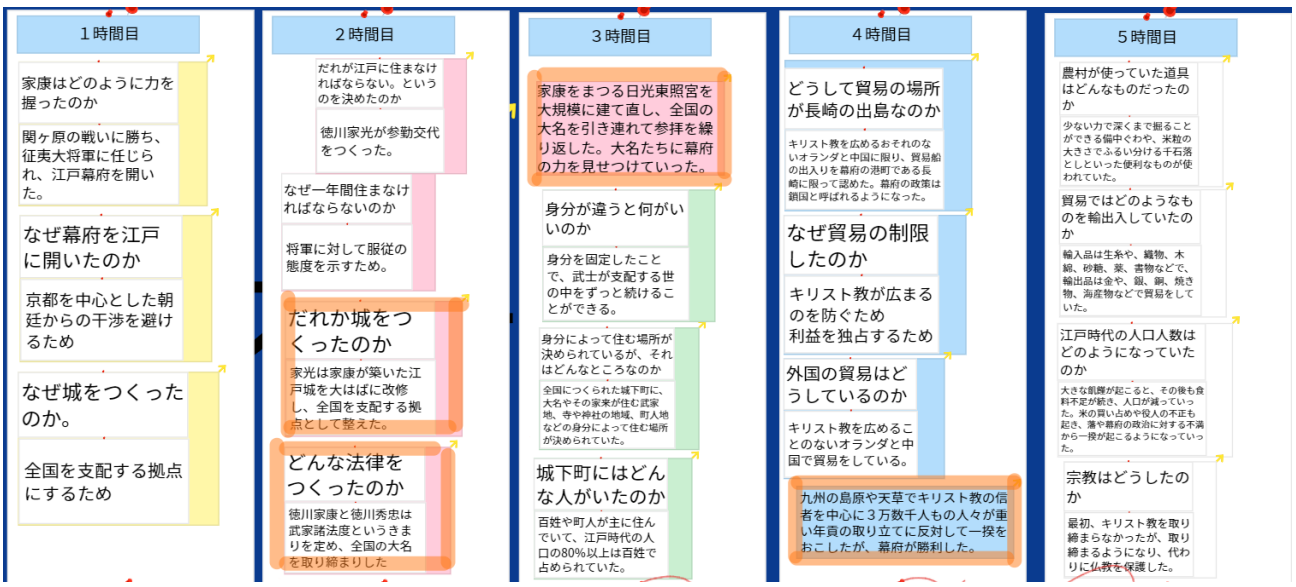
【資料４】提示した道しるべワード

授業の終末では、同じ追究の視点を調べている子ども同士でペアを組み、道しるべワードを基に互いの学習を評価し合い、その活動を基に振り返りを行った。すると以下のようなやり取りがペアで見られた。【資料５】

A：B さんが調べたことに「日光東照宮」がないよ。
B：日光東照宮ってどこの資料で調べたの？
A：教科書の〇ページだよ。日光東照宮を豪華にして、大名たちを参拝させて力を見せつけて、幕府が大名を抑えたから、学習問題の政治の安定につながると思うよ。
B：ありがとう。次回はそれを調べることから始めるね。

【資料５】ペアタイムの際の子どもの会話

このペア活動の後、児童 B の振り返りには、「道しるべワードの日光東照宮を活用できていなかったので、次回、それを調べてから身分について調べたい」と記述し、計画表を見直していた。毎時間ペア活動をして振り返りをし、計画表を修正しながら学習を進める姿が見られた【資料６】。



【資料６】調べたことが蓄積された計画表
※オレンジの枠は加筆。道しるべワードを基に付け加えたカード

５時間の調べ学習を終え、「まとめる段階」では、学習問題についての考えを記述した。調べたカードの中から必要なものを選び、考えをまとめていく姿が見られた。まとめの記述では、４つの視点中、３つ以上の視点で学習問題に対する考えを記述できている児童は３４人中、３１人だった。

5　成果と課題（成果…○、課題…●）

手だて１　問いを基に学習計画を立てる「問いカード」の作成

○　学習問題の追究するにあたり、何を調べたらよいか分からない児童がおらず、児童が学習の見通しをもてていた。これは、児童の問いをそのまま学習計画に生かしたことで、問いカードにある問いについて調べていけばよい、ということが分かり、「何を調べていくのか」が具体的になった計画表を作成することができたからだと考える。

○　学習の振り返りの記述で、どんなことが分かったか、まだ調べられていないことは何か、などが具体的になっている児童が多かった。これは、問いカードを活用して計画表を作成したことで、何を調べたのか、どのようなことが調べられていないかが一目でわかり、さらに、カードを動かしたり、付け加えたりするだけで学習計画を修正できたため、計画表を振り返りに生かしやすかったからだと考える。

●　問いカードで学習計画を作った際、視点によってカードが少なく、その視点の調べ学習が充実しない児童がいた。これは、問いを共有する際、友達が考えた問いに対して関心をもてず、友達の問いを自分の計画に生かせなかったからだと考える。問いを共有する活動で、その問いについて予想させるなど、関心を高め、学習問題の解決につながるような問いを追加できるような工夫をしていく必要があると考える。

手だて２　学習問題解決に向けての「道しるべワード」の提示

○　問いカードを使って、自分の問いについて調べていても、興味が先行して学習問題の追究から逸れてしまうような児童は見られなかった。これは、授業の終盤にペアで道しるべワードを活用しているかを評価し合ったことで、学習問題の追究を意識できたためだと考える。

○　道しるべワードを提示したことで、個別で学習を進めていても、単元で抑えなければいけない事項について調べることができた。

●　調べる段階で学習問題の解決につながる追究を進めることができなかった児童がいた。これは、道しるべワードと学習問題の答えとのつながりが見えず、道しるべワードを適切に活用できなかったためだと考える。調べたことと、学習問題とのつながりを考えられたかについても振り返りができる工夫が必要であると考えた。

6　研究のまとめ

本研究では、「見通しをもって課題を追究・解決できる児童」の育成を目指し、実践を行った。実践を通して、児童は見通しをもって、自分の学習を見直しながら学習問題の解決に向かう学習を進めることができた。これは、学習指導要領が求めている「問題解決的な展開の中で課題を解決する」学習を目指すことができていると考える。

本実践中、１時間の授業が終わると、「先生、今日、この視点についてよく調べられていると思うので、見てください」と教師に話す児童や、「この問い分からないから教えて」と友達に聞きに行く児童がおり、主体的に学習を進める姿がたくさん見られた。また、本実践後、「明治の国づくりを進めた人々」や「世界に歩みだした日本」などの単元では、学習問題を設定し、問いカードを作成すると、教師が指示を出す前に多くの児童が学習計画を作り始めた。中には「もう調べ始めてもいいですか」と尋ねる児童もおり、児童が教師の指示なしで学習に見通しをもち、学習問題の解決に向かおうとしている児童の姿に感心した。

今後も、個別の学習の中で、児童が学習問題の追究をしていけるような手だてを模索し、見通しをもって課題を追究・解決できる児童を育てることができるような社会科学習を追究していきたい。